釧　路　新　聞

平成４年(1992年)１１月２５日（水曜日）

痛みを除く治療

ペインクリニックが注目

道内でも相次ぐ開業

―釧路中央病院でも治療開始―

麻酔科・岩波悦勝医師に聞く

痛みを除く治療―ペインクリニックが注目され始めている。日本では、三十年ほど前から始まった新しい医療分野だが、最近、大学病院ばかりでなく、東京、関西に続いて、道内でも札幌市や旭川市でペインクリニックが開業、釧路では、釧路中央病院に麻酔科外来が設置され、この十月から診療日を拡大して本格的に「痛み」専門の治療を開始した。同病院麻酔科の岩波悦勝医師に、ペインクリニックについて聞いた。

―いま、なぜペインクリニックが注目されているのか。

岩波　今まで「痛み」は診断に使われていた。「痛み」を消すと診断ができないと考えられていた。しかし、診断を終えても痛みだけは残る。患者さんは痛みや苦しみに耐えられない。日々を過ごしている。ペインクリニックは、断然に焦点をあてて患者さんを治療する分野で、そのことの重要性が認識されてきた。

―麻酔科外来のニーズが高まっている？

岩波　旭川市内で開業している周辺の血液循環を良くし「痛み」の原因を徐々に取り除いていく方法だ。

―「痛み」を伴う病気は多い。ペインクリニックの対象となるのはどのような病気なのか。

岩波　「痛み」のある疾患全般を取り扱っている中でも、腰痛、頭痛、五十肩、膝痛、坐骨神経痛、頭・首の痛みに有効だ。「痛み」以外でも花粉症、血行障害、顔面麻痺などにも効果をあげている。老人病には「痛み」を伴なう病気が多いが、これまでは年のせいだとして我慢していた。しかし、長年「痛み」を抱えていると、精神的にも肉体的にも弱ってくる場合があり、早目の治療が大事だ。「痛み」で困っている人は一度相談にきてほしい。病気の診断や検査の結果「痛み」の原因を取り除くことができる場合は、それぞれの専門医と相談することになる。また「痛み」だけが対象となる病気は、ペインクリニックが最も必要となる。

岩波悦勝医師。昭和63年に旭川医大麻酔科本院。旭川麻酔科病院などに勤務、10月1日から釧路中央病院麻酔科医師。

（釧路中央病院麻酔科の診療は、月・水・金が午後五時まで、火・木および第一・第三土曜日が午前中）

健康メモ

骨粗鬆症の予防

このごろよく耳にする病気に「骨粗鬆症（こつそしょうしょう）」があります。これは、骨に目の粗い小さな孔ができ、弱くもろくなってしまうものです。ちょうど骨が脆石のような状態になってしまいます。

こうなると、骨はちょっとしたことで骨折してしまいます。たとえば、尻もちをついたり、転倒したり、バスにゆられて上下したり、大きなセキやくしゃみをしただけで簡単に圧迫骨折をおこします。

40～50歳ごろからはじまり、とくに閉経期後の女性に非常に多いのです。高齢化社会となって、この病気は大きな問題となってきました。

原因については消化管の吸収障害や、リン、カルシウムの代謝障害が考えられます。また、この年齢になると外出することが少なくなり、日光を受けることが減るからともいわれます。日光に浴びないと体のビタミンDが不足するからです。

タバコと心臓病

タバコというと、まず肺がんを連想するが、心臓にとっても"百害あって一利なし"。「やめろ」という医者の前で一服し、そのまま帰らぬ人となった患者もいる、という話があるほど。

タバコを吸う人は2倍狭心症になりやすく、突然死は4倍多いというデータもある。

タバコは冠動脈硬化の原因となるばかりでなく、タバコに含まれているニコチンが冠動脈に直接作用して、これを硬直させ、狭心症や心筋梗塞を起こさせることも多い。

一酸化炭素も、心臓にとっては恐るべき大敵だ。